

2004.12.10.

おしこ図書館

No. 97
代表 青木和子
TEL 047-311-0886
松本市牧の原1-10-416

国立国際子ども図書館

見学

昨秋は、自分たちだけで見て回りましたが、今回は、見学ツアーに参加しました。おかげで、とてもよくわかりました。

今回参加できなかった方も、見学ツアーに参加して、その楽しみ方を、体験してみても如何ですか？

11月11日(木)

建物見学ツアー

渡辺 則子

晩秋の一日、上野へ出かけ、国際子ども図書館を訪ねました。場

所は、東京国立博物館の隣にあります。

見学ツアーは2種類あって、木曜日は、建物について、火曜日は、図書館についてです。この日、2時に受付に集まったのは当会の青木さん・伊藤さん・私と、他に、男性ひとり・女性3人の計7人でした。

バッヂをつけて、案内係の男性に連れ、約1時間半、建物の1階から3階まで巡りながら、詳細な説明を受けました。

この建物は、1906年(明治39年)帝国図書館として創建されました。

当時、アジアに誇れる帝国図書館をという意気込みで、壮大

な計画のもとに着手されましたが側面に当るこの建物を造ったところで、日清・日露の戦争に莫大なお金を使ってしまったため、あとの建物は未完成に終わったということです。戦争は、お金がかかるのです。

昭和4年に一部増築され、1949年(昭和24年)国立国会図書館の支部、上野図書館となり、1996年(平成8年)国立子ども図書館基本計画が策定されて、2002年(平成14年)国立の児童書専門図書館として開館しました。この建物は、ルネサンス様式の代表的な明治期洋風建築として、東京都選定歴史的建造物に指定されています。

案内されて興味深かったのは、それぞれのへやが、当時、どのように使われていたかということでした。

たとえば、旧閲覧室(壁に写真がかかっています)。天井の高い、

広いへやには、着物・はかま姿の男性が机を埋めて座っています。

当時は、閉架式で、図書館を利用できるのは、男性に限られ、しかも、利用料として、現在の100円程度が必要でした。

旧特別閲覧室というのもあり、これは、特別の身分(華族等)の人しか利用できませんでした。

旧貴賓室には、立派な調度品が残っています。木製の大階段や、シャンデリアなども、修復を行いました。現存も使われています。しつこい壁や装飾など、100年前の職人さんたちの丁寧な仕事の跡を訪ねながら、今、これらに囲まれて楽しそうに絵本を見る親子の姿は、とてもいいものでした。



11月16日(火)

図書館見学ツアー

青木 和子

「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という理念に基づき、子どもの読書環境・情報提供環境の整備のために活動を行う、とのコンセプトでつくられた。

平面図とサービス概要は、裏面参照。以下、特筆すべき事々を。照明は、すべて間接照明。しつこいの天井に反射して、室内を隈なく照らすので、読書する時に、影ができない。書架やテーブルにも明りを設置。

館内の展示ケースには、すべて紫外線防止フィルムが貼ってある。ケース内の明りで資料を痛めないように、熱を発生しない光ファイバーを使用。光源は、ケースの下にある。

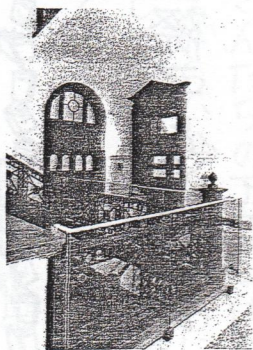
100以上の国の資料を収集。難民キャンプで出版されていた本もあり、その国の人に驚かされた。

国内で出版されたすべての本を収集する「納本資料」は、児童書・絵本・教科書・児童教育関係など。書庫の内部は5層。可動式書架は、手回しハンドルの軽さと丈の低さで、女性職員への配慮がされている。

3階の「メディアふれあいコーナー」は、大人も子どもも、じつに、様々な楽しみ方ができる。機器の操作がわからなければ、職員が手助けしてくれる。

「本のミュージアム」では、2005年4月10日(日)まで、「本にえがかれた動物展Ⅱ」12支を手がかりに「」を開催中。





第一資料室

日本とアジア諸国で刊行された児童書の一部や関連資料及び最新版の教科書を開架します。当室の利用は18歳以上の方です。利用にあたっては、利用カードの発行を受けてください。



ワークルーム

子どもの本に関するワークショップ等を行います。

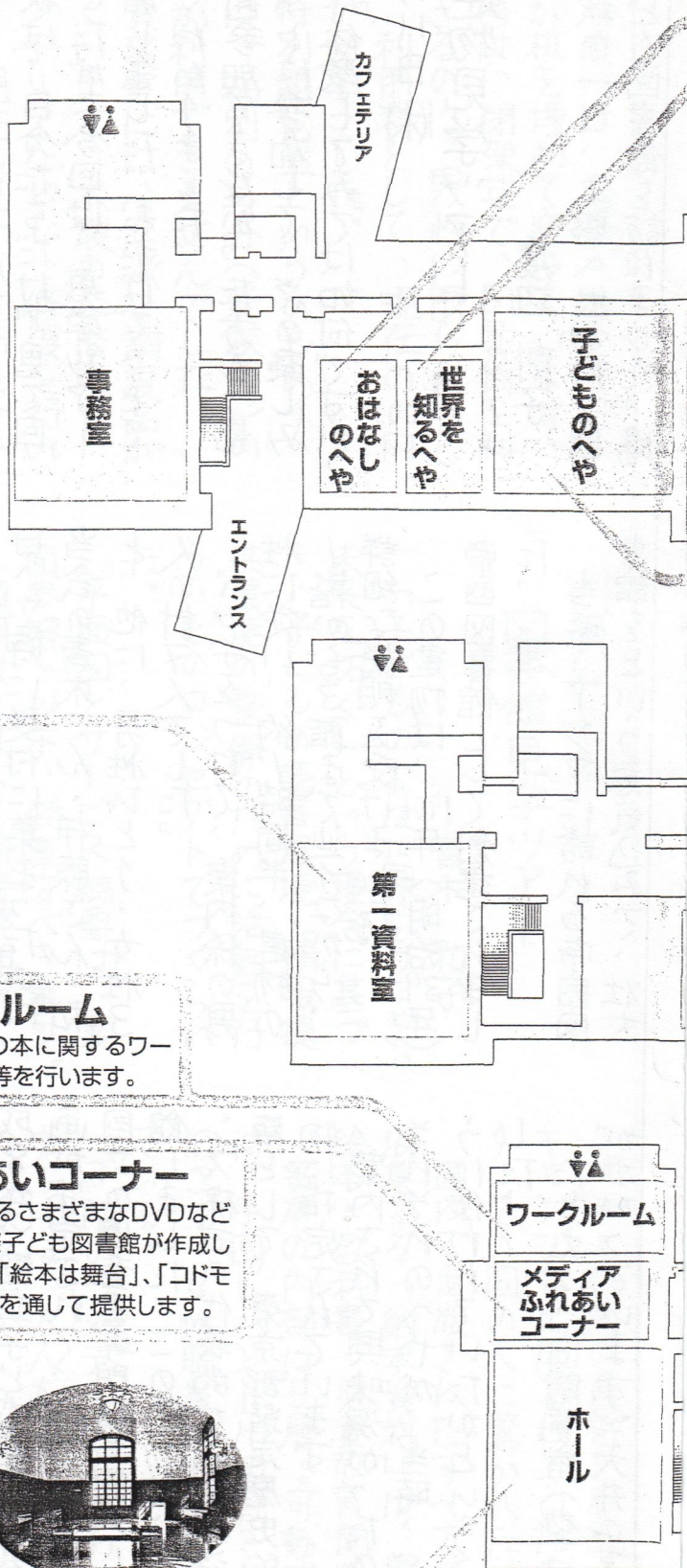
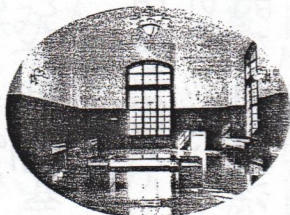


メディアふれあいコーナー

子どもたちが親しめるさまざまなDVDなどの電子出版物や、国際子ども図書館が作成した「絵本ギャラリー」（「絵本は舞台」、「コードモノクニ」）をパソコン等を通して提供します。

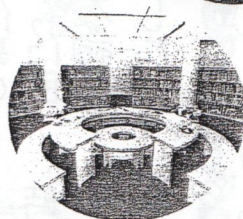
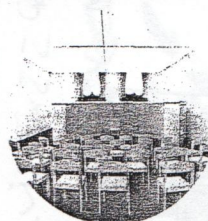
ホール

子どもを主な対象とした催物や児童文学作家、児童図書館関係者等を講師に招いての講演会などを開催します。



おはなしのへや

毎週土曜日・日曜日におはなし会を開催します。



世界を知るへや

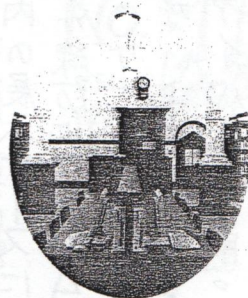
世界各国と各地域の地理、歴史、民俗等を紹介する資料や海外の絵本など、子どもたちが世界に興味や関心を持ち、国際理解を深めることを目的とした資料を配架します。

子どものへや

子どもを対象とする閲覧室です。国内外の子どもの本（絵本、昔話、読み物、知識の本、雑誌など）を配架します。子ども用の検索端末で本を探すこともできます。また、時々テーマによる小展示を行います。

第二資料室

外国（アジア諸国を除く）で刊行された児童書や関連資料を開架します。納本された児童向けのパッケージ系電子出版物やマイクロ形態資料の閲覧もできます。当室の利用は18歳以上の方で、第一資料室と同様利用カードが必要です。

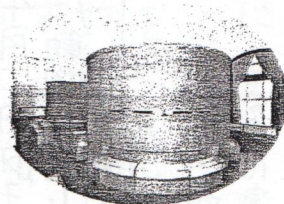


研修室

公共図書館・学校図書館関係者、また児童サービス関係者等を対象とした研修等を行います。

本のミュージアム

子どもの本に関する展示会を年数回開催します。



書庫

資料室からの請求に応じて資料を出納します。収蔵能力は約40万冊です。

書庫

第二資料室

書庫

ラウンジ

本のミュージアム

書庫

研修室